

## まなびや訪問

金融教育研究校・  
金銭教育研究校  
の紹介



3年生の授業の様子①



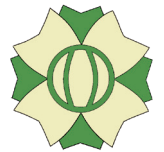
上沼小学校の校舎



5年生の「りんご農家になろう」



3年生の授業の様子②



# 宮城県登米市立上沼小学校

宮城県登米市立上沼小学校は、2005年、登米市誕生とともに上沼地区の三つの小学校が統合され開校しました。東北屈指の大河、北上川が潤す沃野の中心地に位置し、りんご畑などの自然環境に恵まれた学校です。

本校は、2019年度から2年間、金銭教育研究校の委嘱を受け、「人やもの、地域、自然との関わりに気づき、ものやお金を大切に育てる児童の育成」をテーマにさまざまな活動に取り組んでいます。

お互いにお金の使い方や工夫を話し合う中で、「家族が苦勞して働いて得たお金は、大切に使わなければならない」など、家族への感謝を口にする児童の姿が印象的でした。

そして、周囲にりんご農園が広がる本校が、活動の核として取り組んだのが5年生の「りんご農家になろう」です。2019年に、農家の方にりんごの木を植樹していただき、消毒や摘花、受粉、摘果、葉摘み、玉回しなどの作業を教えてくださいました。

具体的には、宮城県金融広報委員会の協力を得て専門家の方を講師としてお招きし、出前授業を実施しました。3年生では、お姉さんの誕生パーティー準備という設定で、おこづかいの範囲内でのように計画的に買い物をするか（お金の使い方）を学びました。また、6年生では、旅行ゲームを通して、お金の大切さを学びました。旅行プランを立てゲームを進めるのですが、予算制約や途中で発生する出費により、プランの見直しが発生

一連の作業を通して、児童は、「自分がりんご農家だったら、1個いくらで売るのが妥当だろう」と、経費や人件費についても話し合い、お金を得ることの難しさやお金の大切さを学びました。ものに満ちあふれた時代。金銭教育はものの価値や働くことの意義を理解する良い機会となっています。今後、ものやお金を大切に、自らの手で人生を切り開いていける児童の育成に取り組んでいきたいと思っております。